会　議　録

【事業番号４　クリエイター誘致事業費】

１　会議名　　平成 29 年度第１回市民行政評価委員会

２　日　時　　平成 29 年 9 月 27 日（水）午後４時 05 分～４時 35 分

３　場　所　　議会第３委員会室

４　出席者

（１）市民行政評価委員会委員

岡田委員長、村田委員、山崎委員、寺田委員、大家委員

喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員

（２）事業担当課（ものづくり産業支援課）

石山課長、山田主査

（３）事　務　局（行政経営課）

津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容

評 価 委 員　：　県外からの誘致を対象としているが、新たに事務所を立ち上げる場合は補助対象とならないのか。

事業担当課　：　対象としていない。

評 価 委 員　：　予算は平成 29 年度の予算は 300 万円だが、多数の申請があった場合どうなるか。

事業担当課　：　特に募集期間は定めておらず、申請があれば審査会を開催している。予算の範囲内での助成となるが、状況によっては補正予算を計上することもあり得る。

評 価 委 員　：　これまでの認定者の中で、同一の所在地が複数人いる。現地はデザイン事務所の集合体のような形であったが、実態として住居になっているのではないか。

事業担当課　：　そこは元々国際デザイン専門学校があった場所で、今は貸しオフィスとなっている。そこを住まいとしている人はいない。

評 価 委 員　：　いろいろな方が助成を受けているが、もっと苦労しているクリエイターに助成すべきでないか。また、金沢の知的な部分を底上げしようという意味であれば、金沢美大の非常勤講師をやってもらい、給与という形で支援すれば良いのではないか。今の事業だと、２年間補助をもらって３年後には出て行ってしまうということもあり得る。

事業担当課　：　非常勤講師については、簡単ではないがそのようなことも視野に

入れていく必要があると思う。我々の思いとしてはこの事業を呼び水に、金沢のクリエイターのレベルアップにつなげ、コンテンツ産業やいわゆるクリエイティブ産業と呼ばれるものを金沢の主たる産業に成長させていきたい。

評 価 委 員 ： この事業の最終的な目標が見えない。金沢市の IT 人口を増やす、そういう基盤を作りたいということなのか。

事業担当課 ： ゲームを制作したり、ウェブ関連で事業を手広くやっている方は沢山いるが、それが基幹産業まで成長しているかというとまだまだそうではない。一方で、今後この分野は大きく伸びていく可能性を秘めており、市として誘致をしたり、支援していくという事業は今後も続けていく必要性があると思っている。これまで機械設備の製造業が中心だった金沢市に、もう一つクリエイティブ産業という柱に成長するまで育てていきたいという思いがある。それが金沢の産業をより強固なものにしていくという大きな展望を持ってやっている事業である。

評 価 委 員 ： 従業員は県外から来ても、事業を市に根付かせればいいということなのか。それとも、地元の雇用拡大も含めた施策なのか。

事業担当課 ： これまでの認定企業の中には、規模は数人と小さいが、東京から従業員も含めて会社ごと金沢に移ってきたケースもある。一方、地元出身の学生をインターンとして採用し、一定期間仕事に加わっていただくという取り組みをしているところもある。更に金沢美大のネットワークを使って授業交流をしたり、裾野を広げる動きも出てきている。

評 価 委 員 ： 地元雇用を条件とした支援の仕方もあるのではないか。

事業担当課 ： 個人事業主もいて一概に出来ないところもあるので、１つの考え方として今後の制度設計時に考えさせてもらいたい。

評 価 委 員 ： 今の話だと、事業の終期を設定しづらい。今の時点で二次評価で終期設定とした理由は何か。

事　業　局 ： この事業はものづくり戦略計画に基づく事業である。計画期間は 10 年だが、計画中、５年を目途に見直しを実施としている。特に経済分野は社会情勢の変化が激しいので、一定の終期を設けて、そのタイミングで検証していただきたいという趣旨である。

評 価 委 員 ： 経済分野の事業に関わらず、一定の期間毎に見直すという意味で、終期は設定したほうが良い。

評 価 委 員 ： なかなか難しい事業かと思う。事務所をいくつか開けば良いというものでもなく、到達点をどの様に考えているのか。これまでの

６件の採択で成果があがっていると見るのか、まだまだなのか。勿論、事業がないよりはあったほうが良いと思うが、ではどれくらい必要なのかとなると、終期もなく整理できるのかと思う。

評 価 委 員 ： この事業は富山市の後追いとなるのか。

事業担当課 ： 富山市は平成 26 年 10 月に「まちなかクリエイティブ産業立地促進事業」という事業を立ち上げており、助成金額などを見ると金沢市より遙かに充実している。富山市に問い合わせたが、実績はゼロであった。金沢は成果をあげていると理解している。現在の件数や金額が適正かどうか、現状では答えを持ち合わせていないが、事業の厚みを持たせるとか、従事者が増えていくとか、そんな視点がどうしても必要だと思う。工業なら生産額が右肩上がりになっているなども言えるが、現状ではそこまで分析が出来ていない。

評 価 委 員 ： そのための金沢市の強みは何なのか。教育機関が多いとか、ネットワーク環境が良いとか、他との違いをもう一度整理した上で、それをアピールすることが必要ではないか。今は中途半端なような感じがする。

事業担当課 ： 裏付けも含めてしっかりとしたバックボーンを持ちながらやっていけるように精査していきたい。

評 価 委 員 ： 産業として成長し、税収の拡大や雇用が改善することが究極の目標ではないか。

評 価 委 員 ： そのためには、従業員を市内から雇用するなど、地域を活性化していく必要がある。

評 価 委 員 ： しばらくは動向を見極める必要があるだろう。